

平成24年度 第4回栄養学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年9月1日（土）16：30～

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：武藤志真子委員長 市丸雄平委員 酒井映子委員 室伏誠委員
（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 検討事項

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

・学士力の解説

1. 学士力の背景について

学士力を設定した背景について委員より作成された案を読み合わせ、内容に関する説明がなされた。授業の内容や方法、各到達目標については言及せず、背景認識を整理考慮して検討し、文章を作成した。

以下に主な意見を列挙する。

- ・栄養学の役割、使命を整理して、どのようなことを重点的に培わなければならないのかを示さねばならない。
- ・栄養学の使命とは、食との関連の上で健康を実現することである。
- ・学問に健康が入らないと栄養学として成立しない。
- ・健康とは必ずしも個体だけでなく、社会の健康もある。
- ・栄養学とは、食物との関連を科学的・実践的に追及し、解明していく学問である。
- ・知識、技術に加え、マネジメント能力が必要。
- ・栄養学の使命とする特徴や範囲を示したらよいのではないか。
- ・医学とは違う学問であることを示すには相違点が多すぎるので、その点には触れないほうがよい。
- ・システム科学の視点を強調したほうがよい。
- ・学問だけでなく実践に結び付かなければならない。
- ・食と関わる遺伝子。健康の状態や疾病の原因と対策を明らかにすることを学問の範囲としている。
- ・食と健康の関係を社会科学および自然科学の面から科学的に追及し、エビデンスに基づいて実践しなければならない。
- ・健康とは、個人と集団の側面から疾病予防と健康増進を捉えることにしている。
- ・社会の変化に応じることが必要。昔と今の病気は違うため。
- ・社会構造の変化とともに移り変わる食と健康の課題解決の関連性が重要。
- ・資格試験ではなく、広がりのあるものをイメージする。

- ・人間の営みとしての食について幅広い視野を持たせ、多様で学際的な領域の知識と技術の修得を目指す。
- ・知識と技術の修得、そこから更に実践活動が必要。実践活動の姿勢。
- ・身に付けた学問(知識と技術)を社会に貢献していかなければならない。そのためには、自ら課題を見つけ、それを解決していく力が必要。
- ・知識と技術の修得を図るとともに社会で実践できることを目指す。
- ・実践に求められるものとして、社会構造と変化に移り変わる食と健康の課題に対して論理的な思考が必要。
- ・学際領域との協働活動が必要。

2. 到達目標の解説について

5つの到達目標（1. 栄養・食生活と心身の健康、2. 健康維持・増進、疾病予防、3. 食環境づくり、4. 食事・栄養療法、5. 栄養マネジメント）の解説について、委員より作成された案をもとに、どのような知識を身につける必要があるのか、どのような教育が必要かを検討し、文章を作成した。その際、到達目標5の到達度についても再検討し、まとめた。

V. 次回委員会

開催日：平成24年9月29日（土）17：00～

検討事項：教育改善モデルの編集

以上